

ベストクラス選定理由書

作成者：財満大輔・大地みう・信岡椰紗・菅原美希・徳田花音・上野和博・中島武史・吉高朱音

科目名称		教育文化の歴史（夜間クラス・フレックスクラス） (担当教員名：平野亮)	
課 程	: 大学院（修士）	開講時期	: 後期
授業形態	: 講義・演習	授業規模	: 30人以下
インタビュー対象教員名 平野亮 (実施日時：9月2日； 実施場所：Zoom上)			
インタビュー対象受講者名 津田二千翔・上所祥子 (実施日時：8月26日・9月2日； 実施場所：Zoom上)			
<p>選定理由</p> <p>授業のねらいは、教育を文化の一部として位置付け、歴史的な視点から教育の成り立ちを考察することである。授業は、教員による講義からなる前半と、受講者が歴史研究を体験的に学ぶ後半にわかれる。前半は、教育文化の歴史的背景や概念を体系的に学ぶ構成であり、受講者の興味を惹きつける話題が提供される。後半では、受講生が歴史研究に関する論文を選択し、その構成や調査方法をトレースすることにより、結論の導き方、図書館での資料探索、歴史研究に必要な費用・時間の理解といった、研究の基礎を実践的に学ぶことができる。また、受講生は発表をし、教員からフィードバックを得ることで、今後の学びに生かすことができる。</p> <p>担当教員は、本授業を約10年間担当されている。過去には講義中心の形式であったが、受講者から「研究方法を学ぶ機会が少ない」との指摘があった。これを受け、授業の半分を学生主体の学びに転換し、現在の形式が確立された。</p> <p>受講生は、授業の内容、小発表、そして教員の熱意の三点を特に評価している。授業では「教育」という語源から始まり、学校空間、人間関係、西洋との比較など、教育の基本的な捉え方を幅広く学ぶことができる。また、歴史研究を進める上で「当たり前を問い直す姿勢」が重要だと感じたとも述べている。授業で得た視点をもとに、自ら調べ、考える姿勢が育まれ、学習への意欲が生まれている。</p> <p>この授業は、教育を文化的・歴史的に捉える視点を養うだけでなく、受講生が主体的に研究に取り組む機会を提供するものであること、また、教員の熱意と工夫、そして多様な背景をもつ受講者の存在が、学びの深まりを支えていることがわかった。以上のことから、本授業をベストクラスに選定することとする。</p>			

提出先：学務課教務企画チーム（office-kkikaku-t@ml.hyogo-u.ac.jp）